

キシノウエトタテグモ *Latouchia swinhoei typica* (Kishida)

【選定理由】

カネコトタテグモ同様地中性のクモで、都市周辺の神社、仏閣、城、人家付近の地中に棲むため、カネコトタテグモ同様に環境が破壊され、激減または絶滅の恐れが大である。また、本種にはクモタケが寄生することが多く、その犠牲になる数も多い。



日進市赤池町, 2011年11月10日, 緒方清人 撮影

【形態】

体長雌 10~15mm、雄 9~12mm。背甲の中窩は横向き。頭胸部には疎らな毛がある。胸板にくぼみがある。腹部は茶褐色で背面に赤褐色または黒褐色の横縞がある。

【分布の概要】

犬山市、名古屋市（昭和区・千種区・瑞穂区・中区・熱田区）、瀬戸市、東海市、岡崎市、豊田市、安城市、豊橋市などで確認しているが、局所的である。

国内では、本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

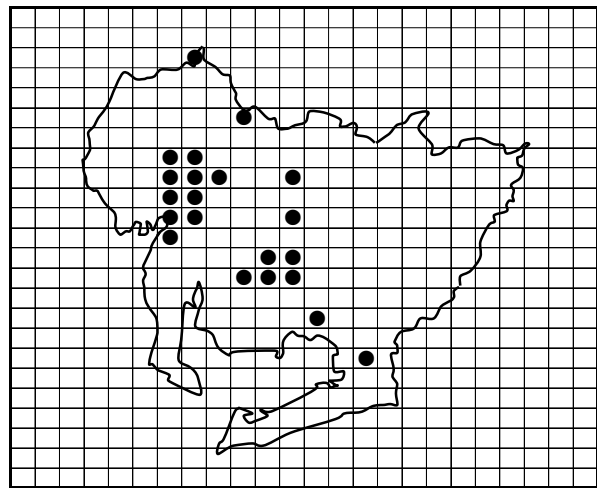
【生息地の環境／生態的特性】

崖地や古い石垣の隙間等に、深さ 20cm 前後の穴を掘り、その中に潜む。入り口に円形の扉を付け、普段は閉じている。扉の表面に土を付けるので見つけにくい。主に都市や市街地に分布するが、豊田市の王滝溪谷と県域化センターからも確認されている。これらは、工事の際に植木や石材などの物資に紛れ込んだ等、人為的分布と思われる。

【現在の生息状況／減少の要因】

名古屋市の場合、人家の庭でも生息していたが、近年は宅地の工事等の影響で記録されていない。八事興正寺境内、岡崎市岡崎城公園、同市東公園等では、生息数が減少傾向にある。主な要因は崖地の工事や歩道整備等が考えられる。時にはクモタケも生えるが、被害はよく分っていない。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息区域での崖地、石垣等の工事では十分な配慮が必要である。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, pp.19,163. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.3. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.82. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.91,598. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.35,485. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)